

Y17b 地域的特性を活かしたサイエンスパブの開催(2)～「サイエンスパブ in 福岡」の一年～

高妻 真次郎、山岡 均、島田 雅史、坂根 悠介(九大理)

「サイエンスパブ in 福岡」では、従来のサイエンスカフェとは形を変え、より気軽に密接的な対話の場を作り出すことを目指している。従来のサイエンスカフェでは、30分程度の短い講演とその後の質問コーナー的な対話・議論という流れが一般的である。だが我々は、福岡の屋台でよく見られる初対面同士でも気軽に議論するという一種の「屋台文化」にある市民性を活かし、一貫した雑談形式をとることで、密着型の対話による「大人のための」天文学の普及活動を行っている。

2007年秋季年会(Y07b、高妻真次郎 他)では、そのコンセプトと第1、2回目の様子について報告した。具体的な形式としては、「一家に1枚 宇宙図」(日本天文学会2007年春季年会、Y11b、小阪淳 他)を題材に、ラミネート加工したものを壁やテーブルに配置、コミュニケーターが参加者の間を巡回することで、フリートーク形式の密接的な対話を交わすというものであった。だが、継続的な開催、参加者の入れ替え等の問題点も浮き彫りとなり、その後の開催にあたっての課題・改善点について示した。

我々のサイエンスパブも活動を始めて1年を迎え、2008年6月までに計5回のパブを催している。各回で開催形式は固定せず、時間帯だけを決めて出入りを自由にする、申し込み制にする等の全体的な流れを始め、開催場所、曜日、時間帯なども変化させながら様々な形を試し、問題点の解決とともによりよい方向性を模索してきた。さらに第4回以降、参加者にアンケートを取ることで、広く意見を取り入れている。講演では、形を変えて催したパブのそれぞれの形式での利点や欠点、改善点などについてアンケートの結果とともに報告・議論する。